第四講　序詞／縁語

1

序詞

通常七音以上。ある語句を導くためのもの。作者が独自に創り出す。訳す。

〈見つけ方〉※前半「　　　　・　　　　」＋後半「　　　　・　　　　」の場合、**前半が〈序詞〉**になりやすい。

a「の」形
b　同音（類音）の**反復**
c　掛詞の直前
d　比喩

a「の」形…「の」（**←二句目か三句目の最後**〔音で数えて**12音目か17音目**〕にある場合が多い）が、**「〜のように、のような」**と訳せたら、そこまでが序詞。

（例）瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ

来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに焼くや藻塩の身もこがれつつ

注　まつほの浦…現在の兵庫県津名郡淡路町の海浜。淡路島の北端。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

b

同音（類音）の**反復…二つ目の同音の直前まで**が序詞。

（例）　ほととぎす鳴くや五月のあやめ草あやめも知らぬ恋もするかな

c

掛詞の直前までが序詞。

（例）　難波江の葦の［かりね］のひとよゆゑみをつくしてや恋ひわたるべき

＊「かりね」が「刈根」と「仮寝」の掛詞

d

比喩の部分が序詞。

（例）　み熊野の浦の浜木綿（はまゆふ）百重（ももへ）なす心は思（も）へど直（ただ）に逢はぬかも

由良のとを渡る舟人かぢを絶え行方も知らぬ恋の道かな

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問1　次の歌の「安積香山影さへ見ゆる山の井の」の説明として、最も適切なものを後の中から選べ。

※安積香山（あさかやま）影さへ見ゆる山の井の浅き心を我が思はなくに

※安積香山……福島県郡山市の北部にある小山の名

ア　枕詞　　イ　序詞　　ウ　懸詞　　エ　縁語

問2　和歌「<u>壁に生ふるいつまで草の</u>いつまでかかれずとふべき篠原の里」の傍線部の修辞法を何というか。次の中から選べ。

注　いつまで草…植物の名前。

ア　枕詞　　イ　掛詞　　ウ　序詞

エ　縁語　　オ　折句　　カ　沓冠

問3　「したにのみ恋ふれば苦し紅（くれなゐ）の末摘花（すゑつむはな）の色に出（い）でぬべし」の和歌についての次の説明文の空欄に、最適な和歌の修辞名を漢字二字で記せ。

＊末摘花…ベニバナの別名。

この歌の「紅の末摘花の」は、思いが外にはっきり表れることを、ベニバナの鮮やかな紅色でたとえる［　　］である。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2

縁語

歌の中の中心的な名詞に関連の深い語を詠みこむこと。

〈見つけ方〉

a　**自立語**（＝助詞・助動詞以外）**のみ**

b　**歌の文脈に関わらない**

c　**掛詞の片方**が縁語になっていることが多い

d　**掛詞が複数**ある場合、**「景色や事物」どうしが縁語**になっていることが多い

（例）　鈴鹿山うき世をよそにふり捨てていかになりゆくわが身なるらん

問１　「秋風の音さへかはる鈴鹿山ふるさと今や遠くなるらん」の和歌には、山の名前「鈴鹿山」に含まれる「鈴」からの連想を生かした修辞技法が使われている。その技法について、技法の名前をあげながら、具体的に説明しなさい。

〈例題１〉　次の和歌中の縁語を説明せよ。

袖ひちて　むすびし水の　凍れるを　春立つ今日の　風やとくらむ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★よく出るパターン

●衣…着る・袖・裁(た)つ・裏（＝裏地）・萎(な)る（＝衣服がよれよれになる）・褄(つま)（＝着物の裾の左右両端の部分）・張る（＝布につやをだしたり、伸ばしたりするために、糊をつけて板に張る）

●袖…張る・覆(おほ)ふ・涙・結ぶ（＝男女の袖が重なる→深い関係になる）・解(と)く（＝結んだ袖を解く→男女が共に夜を過ごし翌朝に別れる）・断(た)つ（＝袖をもう結ばない→男女が関係を断つ）

●糸…乱る（＝からまる）・ほころぶ（＝ほどける）・縒(よ)る（＝糸を何本かねじって一本にする）・繰(く)る

●水…汲(く)む・掬(むす)ぶ（＝水を手ですくう）

●川…流れ・沈む・底・瀬（＝浅い部分）・淵（＝深い部分）・わたる

●浦…海人(あま)（海女(あま)・海士(あま)）・海松(みる)（＝海藻の名）

●波…立つ（＝発生する）・超(こ)ゆ・濡(ぬ)る・掛(か)く（＝かかる）・返る（＝沖へ戻っていく〔寄せては返す〕）・浦・音

●霧…晴る・立つ（＝立ちこめる）・空

●露…消ゆ・置く（＝発生する）・結ぶ（＝結露する）・葉・野・秋・命（＝「はかないもの」）

●緒(を)（＝「命」）…絶ゆ・弱る・永らふ

●煙(けぶり)…火・くゆる（＝くすぶる）・なびく

●藻塩(もしほ)…焼く（＝海藻を焼いて塩をとる）・焦(こ)がる（＝同様に海藻を焦がして塩をとる）

●草…萌ゆ（＝芽を出す）・刈る・結ぶ（＝占いや道しるべで草を結んだり、野宿をする時に草を結んで枕にした）・芽

●鏡…曇る・現(あら)はる・影

●笠…天(あめ)・天(あま)・さす

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●髪…長し・乱る
●鈴…なる・ふる
●弓…張る・射る・引く・反る
●芦…根・節（ふし）・節（よ）（＝節と節の間の部分）
●竹…根・節（ふし）・節（よ）

問２　次の傍線部「衣」の縁語はどれか。後の中から一つ選べ。

君（きみ）とおやのあつきめぐみに旅衣（たびごろも）なれぬ野山（のやま）のすゑもたどらじ

ア　おや　　イ　めぐみ　　ウ　なれ　　エ　野山　　オ　たどらじ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　復習問題

①　和歌「あしひきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜を一人かも寝む」の傍線部のような技法（修辞）を何というか。次の中から選べ。

ア　掛詞　　イ　枕詞　　ウ　縁語
エ　序詞　　オ　歌枕

②　「風吹けば沖つ白浪たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ」とは表現の方法が異なる和歌を、次の中から一つ選べ。

ア　由良のとを渡る舟人かぢを絶えゆくへも知らぬ恋のみちかな
イ　あしひきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む
ウ　人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香ににほひける
エ　瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末にあはむとぞ思ふ

③　「深き」、「結び」、「流れ」、「せき」などは、「細河」に関わる言葉である。このような修辞上の技法を何というか。最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

ア　序詞　　イ　掛詞　　ウ　縁語　　エ　枕詞　　オ　重詞

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　次の和歌に用いられている修辞法を、後の中から**二つ**選べ。

鳴く声も聞こえぬ虫のおもひだに人の消つには消ゆるものかは

ア　枕詞　　イ　序詞　　ウ　掛詞　　エ　歌枕
オ　対句　　カ　折句　　キ　縁語　　ク　倒置

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　模範解答

1

問1　イ

問2　ウ

問3　序詞

2

問1　「ふる」と「なる」が「鈴」の縁語

〔例題1〕「むすび（結び）」「はる（張る）」「たつ（断つ）」「とく（解く）」が「袖」の縁語。

問2　ウ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　解答解説

〈解説〉

① 三句目の末の「の」が「～のように」と訳せるので、序詞である。よって、正解はエ。

② 設問中の和歌の技法は「序詞（風吹けば沖つ白浪）」か「掛詞（「たつ（竜（田山）・（浪が）立つ）」）」。アは比喩、イとエは「の」型で判断できる序詞がある。ウは上の句が心情であることからも、序詞ではないことがわかる。よって、正解はウ。

③ 「細河」（＝体言）に関連する語➡「縁語」とわかる。よって、正解はウ。

④ 第二講で学習した「頻出例」の掛詞「ひ（（思）ひ・火）」があり、「消つ」「消ゆる」が「火」の縁語。よって、正解はウとキ。

〈解答〉

① エ　② ウ　③ ウ　④ ウ・キ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。